

平成 28 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコースセミナー

日 時：2017 年 1 月 5 日（木）13:00～16:10

場 所：兵庫県立大学 明石看護キャンパス 406

テーマ：アロマセラピーの原理と実際

講 師：吉田 由花 先生（英国 ITEC 認定アロマセラピスト、(株)ホリスティックケアジャパン代表、ホリスティックケアプロフェッショナルスクール学院長）

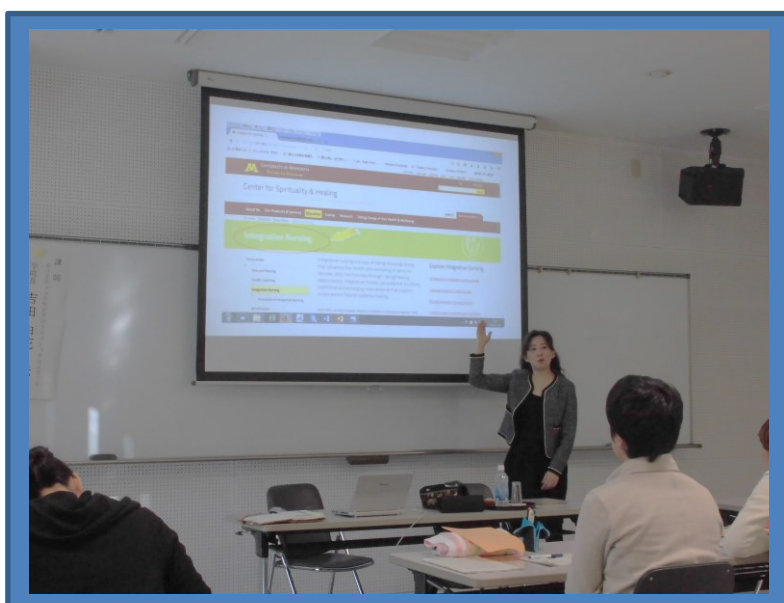
受講者：7 名

アンケート回収：7 名（回収率：100%）

主 催：兵庫県立大学看護学研究科 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
代表：内布敦子

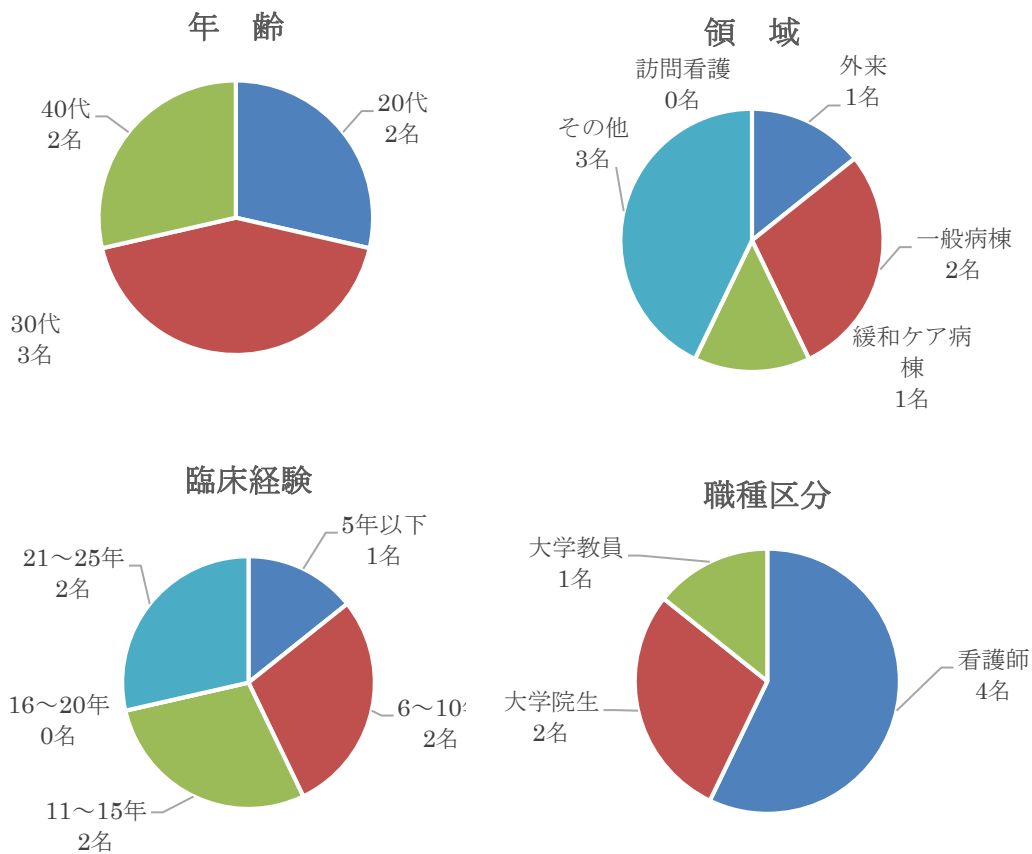
<開催概要>

今回のセミナーでは、「アロマセラピーの原理と実際」をテーマとして、吉田由花 先生（英国 ITEC 認定アロマセラピスト、(株)ホリスティックケアジャパン代表、ホリスティックケアプロフェッショナルスクール学院長）にご講演いただきました。講演では、ホリスティックケア（全人的ケア）に必要な 3 つの観点「心 (mind)」「体 (body)」「魂 (spirit)」から、がん看護の臨床に活かせるアロマセラピーの原理と実際についてについて分かりやすくご解説いただきました。また、演習により実際の手技についてもレクチャーいただきました。

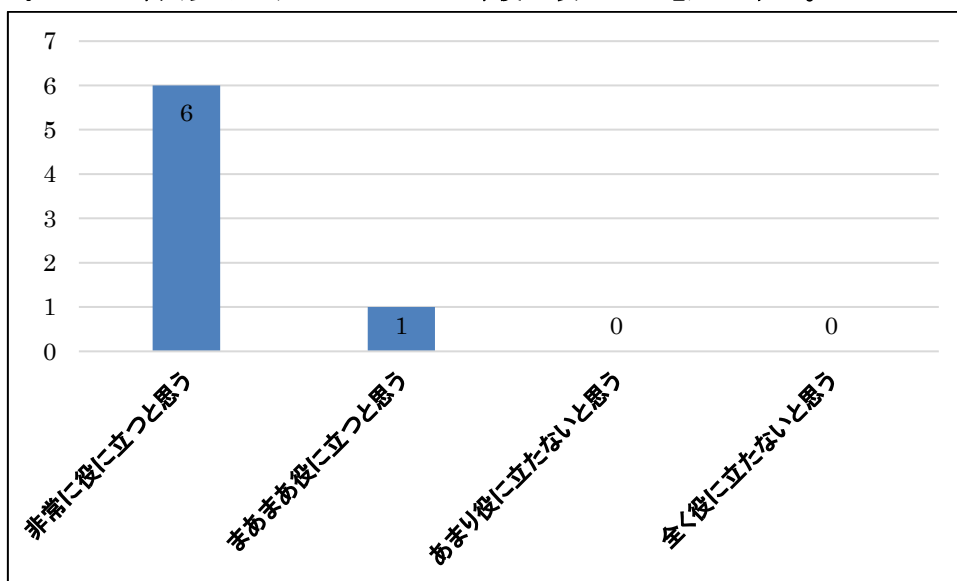


<アンケート集計結果>

Q 1 : 最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。



Q 2-1 : 今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q 2-2 : 企画に参加してあなたが感じたことがあれば自由にお書きください

- ・現在の所属でとりいれる事は困難だと思うが、今後自分が看護師を続けていく上で提供できるケアにしていけるように学習したい。
- ・まだまだ看護師でもできることがあるのだと分かって、他のスタッフにも広めていきたいです。病院がアロマに対する抵抗感がなくなればいいと思いました。また（セミナーを）してほしいです。
- ・看護の視点、精神的な安寧や身体的苦痛を緩和する一つのケアとしてのアロマセラピーを学ぶことが出来、非常に有意義な学びとなりました。触れる、傾聴し、語りかける、それだけでも何か影響しうることもあるのだと思ったので、必要かどうか、ニードがあるかを見極め実践してみたいと思いました。
- ・患者さんに“触れる”ことの大切さ、それ自体がケアになるということを実感して学ぶことができました。
- ・においと肌に触れられることでの癒しを感じました。

がん看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。

また、それを解決するために必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

Q 3-1 : がん看護実践上の課題をお書きください

- ・意思決定支援について（2名）
- ・患者、家族の想いと、治療をどこまで続けていくのかという先生の治療方針にズレが生じるとき、ギアチェンジのタイミングなど
- ・がん末期の人を在宅に帰らせる支援
- ・療養の場所の決定
- ・業務が多く複雑な側面をもちながら患者さん一人ひとりに対して個別性のあるケア（看護）の提供について。看護師としてやるべき事が治療優先になってしまうこと。このようなケア提供が評価されにくいこと。
- ・化学療法時の副作用対策
- ・疼痛管理
- ・がんと診断された時から緩和ケアのことを知っていただけるように、緩和ケアの普及ができればよいのではないかと思います。

Q 3-2 : 今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマをお書きください

- ・化学療法時の副作用対策
- ・がん末期の人を在宅に帰らせる支援